事例９：事業継続力ＵＰは、仕組み作りがポイント！

スタイル・オブ・ジャパン株式会社：「無意識のデザイン」は会社も地球も救う

■会社概要

企業名：スタイル・オブ・ジャパン株式会社
所在地：福井県小浜市
従業員数：5名
資本金：600万円
業種：塗り箸の企画・製造・販売
保険：火災保険（風水害含む）
地震保険、休業補償など

◇なぜ防災・減災に力を入れるようになったのか

・2016年台風10号では小浜市内も浸水被害があり、多くの箸製造業者・加工業者が被災した。自社は被災を免れたものの、同業者の被害を間近で見たこともあり、災害への危機意識が高まった。

・豪雨後の災害は、なぜ起こるのか。近年は林業従事者の減少により森が放置されており、豪雨後の倒木や土砂の流出など被害が拡大している。防災を意識するようになるとともに、箸づくりを通じて、出来るだけ多くの人に森や木の現状を知ってほしいと考えるようになった。

◇どのような事前の備えをしているか

・2020年11月に災害に強い拠点に移転した。以前の拠点は海に近く津波リスクがあること、また製造部門新設に向けより広い敷地が必要となったことから、移転を決意。自社の製造部門を持つことで、製造委託先が被災した場合も自社生産に切り替え可能、もしくは被災先に製造人員を派遣することも可能となった。新社屋の設計の際には、雪の落ちやすい屋根や動線に配慮するなど、雪害対策も意識し災害に強い建物となるよう心掛けた。

・福井県の間伐材を一括仕入れしている製材所と連携しており、被災時にも材料を優先供給してもらう協定を結んでいる。

・停電に備えて、ポータブル電源を用意。パソコン、ケータイは維持可能なので、安否確認や関係先との連絡なども行うことができる。重要情報のクラウド化も実施済み。

写真左：スタイル・オブ・ジャパン株式会社　代表取締役　大森一生　氏
写真右：間伐材で製作した若狭塗り箸

◇仕組み　その１：福井県産 間伐材の活用

・同社では、福井県内の間伐材を使用したピュアジャパンの箸の企画販売を行っている。「ウッドショック」により輸入木材・輸入半製品が減少する中でも、安定した量・価格の原材料を確保することができ、事業継続の要となっている。

・従来は廃棄されていた間伐材を再利用することにより、新たなサプライチェーンを構築。海外で木材を伐採せずにすむので森林保護・CO2削減にも寄与している。消費者は箸を購入することで、無意識のうちに地球環境に貢献することができる「無意識のデザイン」が施されている。

◇仕組み　その２：製造部門新設で箸製造業者の事業承継

・小浜市は若狭塗り箸の一大産地だが、高齢化やコロナ禍の影響もあり作り手が減少、廃業してしまう業者も多い。技術や審議眼のある人手も減少し、工場閉鎖により機械が散逸してしまうという問題もある。その中で安定して事業継続するために、これまでのファブレス経営から方針転換、自ら製造も担うことにした。現在、事業再構築補助金（第5次）を活用して作業場を建設中（2023年11月完成予定）。箸産業の継続へと繋がっている。